

令和7年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月5日実施)	総合評価 (3月23日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①生徒が自ら課題を発見し、主体的に学ぶ意欲を高める授業を通して、個々の学力を向上させるとともに、STEAM教育の実践を通じて探究的で創造的な学びを推進する。</p> <p>②特別活動において、創造力や実践力、主体的で責任感旺盛な態度を育てる。</p>	<p>①STEAM教育研究推進校4年目として生徒の主体性・探究心を伸ばす授業を実践し、1人1台端末の効果的な活用について組織的な授業改善を進める。</p> <p>①新しいカリキュラムの意義やねらいを職員間で共有し、学校教育目標やスクールポリシーで示した資質・能力を育成できるよう組織的な研究を進める。</p> <p>②特別活動を通して、主体的で責任感旺盛な態度を育成しつつ、実践力の育成にも取り組む。</p>	<p>①本校のSTEAM教育の実践について、総合的な探究の時間を軸に置き、学校教育目標等で掲げた育てたい生徒像や育成したい資質・能力を念頭に置きながら、教科横断的な取組の方向性を組織的に議論し、研究する。</p> <p>①生徒の基礎的な知識・技能の習得のための指導を継続的に実践しつつ、学習評価を通して生徒が次の学びに向かうよう動機付けるとともに、評価の結果を教員の指導の改善につなげる。</p> <p>②委員会活動や学校行事を生徒主体で実践できる環境づくりを進め、それらの活動に責任をもって取り組みながら、課題解決できるよう支援する。</p>	<p>①STEAM教育研究推進校4年目として、生徒の主体性や探究心を伸ばす授業を実践することができたか。また、1人1台端末の効果的で組織的な授業改善を進めることができたか。</p> <p>①学校教育目標等に示した資質・能力を育成できるよう組織的に研究できたか。</p> <p>②行事アンケート等の回答結果から、特別活動において生徒が主体的に責任感をもって、課題解決に向けて取り組むことができたか。</p>	<p>①STEAM教育に関する研修会を毎月定例の職員会議後に研修を実施し、教科横断的な取組や1人1台端末の効果的な利用について情報を共有した。</p> <p>①職員間の情報共有や実践力向上のため、昨年度に引き続き、授業研究会とは別に校内での授業研究会を実施し、学習指導について議論を深める機会とした。</p> <p>②体育祭や文化祭等、生徒主体で運営できる環境整備を進め、文化祭アンケートの「主体的に責任感をもって取り組むことができたか」に対して約94%の生徒が肯定的な回答をした。</p>	<p>①生徒による授業評価アンケートや授業研究会等の機会を通して授業改善の効果について検証し、より効果的な授業改善ができるよう組織的に研究を継続していく。</p> <p>①教員間の情報共有をより活発に行う機会を増やし、全学年で新学習指導要領の科目が実施され、カリキュラムの検証と見直しの議論を行っていく。</p> <p>②昨年度の反省をいかし、生徒は主体的に責任感をもって取り組んでいた。来年度に向けて、行事等の準備を進めるとともに、引き続き主体的で責任感旺盛な態度の育成に取り組んでいく。</p>	<p>①生徒による授業評価アンケートや授業研究会等の機会を通し、「生徒の主体的な学び」につなげられる授業展開ができるとよいのではないかと。</p> <p>①研修を多く実施しているので、議論を深める場面から、次のステップへ移行し、授業での実践につなげて欲しい。</p> <p>②生徒主体で実践できる環境づくりを進めている様子が伺えた。引き続き、生徒主体で組織的に取り組ませ、生徒の成長につながる支援をしてもらいたい。</p>	<p>①毎月の研修で情報共有が効果的に行えた。「生徒の主体的な学び」になるような授業改善に向けて研究を継続していく。</p> <p>①授業研究会と校内での授業研究会を実施し、学習指導について議論を深める機会が持てた。さらに授業での実践のため、情報共有を図る。</p> <p>②アンケートの結果からも支援は有効であったと考えられる。教員間の引継ぎを強化し、有効な支援の継続を図る。</p>	<p>①生徒による授業評価アンケートや授業研究会等の機会を通して授業改善の効果について検証し、「生徒の主体的な学び」につなげられる授業展開になるような研修や授業改善の機会を増やす。</p> <p>①議論した内容を授業で実践し、そこで得た課題を計決できるような情報共有を図る。</p> <p>②前年度から準備を開始する方式を継続し、生徒が様々な場面で主体的に課題解決できるように支援していく。</p>
2 生徒指導・支援	<p>①安全・安心、且つ、規律ある学校生活を送るために、生徒の自主自律の精神を育む指導法を確立させる。</p> <p>②文武両道を「より高いレベル」で実践し、主体的で責任感旺盛な態度を育てる。</p> <p>③SC・SSW等と情報共有を図るとともに、担任・学年と連携し、支援を必要としている生徒に適切に対応する。</p>	<p>①生徒が安心して登校できる環境を確保し、自ら規律ある学校生活を送る態度を育む。</p> <p>②文武両道の実践から、主体的で責任感旺盛な態度の育成に取り組む。</p> <p>③支援を必要とする生徒の情報共有が適切に行われるようSC・SSW、養護教諭との連携を図る。また、サポートドック等の相談業務が円滑に行われるような相談体制を確立する。</p>	<p>①日常的に職員全体で生徒への積極的な声掛けを行い、生徒一人ひとりの規範意識の向上を図る。</p> <p>②部活動の活性化への取組を継続し、生徒の主体的で責任感旺盛な態度の育成に向けた支援をする。</p> <p>③学年団の職員と協力して相談業務を行い、関係職員と情報共有ができる体制を構築する。</p>	<p>①職員全体で生徒への声掛けをすることができたか。また、生徒が自ら身範意識の向上を図ることができたか。</p> <p>②部活動の活性化への取組が充実できたか。また、各部の活動から、生徒の主体的で責任感旺盛な態度の育成に向けた支援ができたか。</p> <p>③保健室での相談業務の偏りを減らすことができたか。また、サポートドックの面談を適時行うことができたか。</p>	<p>①今年度から略装期間を廃止したため、生徒の認識不足による規則違反が多少見られた。しかし、制服着用規則を教職員に掲示したことで、学校全体で共通理解を図ることができた。</p> <p>②部活動紹介や勧誘を積極的に行い、新入生の部活動加入率は約88%だった。また、部活総点検により、各部において顧問が目標実現に向けて支援し、生徒が主体的に活動していることを確認できた。</p> <p>③保健室と担任で円滑に情報共有を行うことができた。サポートドックは担任によるプッシュ型面談とSC・SSWとの情報共有が円滑に行われるようになった。</p>	<p>①年度初めに学則の配信をするともに、集会等を通じて生徒への周知の徹底と教職員の共通理解を図るようにする。</p> <p>②来年度も引き続き、部活総点検の点検結果も参考にしながら、部活動の活性化への取組を継続しつつ、生徒の主体的で責任感旺盛な態度の育成に取り組んでいく。</p> <p>③来年度以降も保健室と担任との情報共有が円滑に行われるようサポートドックについても、担任によるプッシュ型面談とSC・SSWとの情報共有が円滑に行われるようにする。</p>	<p>①登校指導や日常的な声かけを継続して行い、適切な指導が行われている点は評価できる。校内での連携・共有体制の更なる強化に努めてもらいたい。</p> <p>②部活動の活性化への取組を継続しつつ、生徒の成長につながる支援をしてもらいたい。</p> <p>③教職員間の連携が定着し、相談につながる生徒が増えた点が評価できる。教職員とSC・SSWとのさらなる連携の強化に努めてもらいたい。</p>	<p>①初期対応を学年全体で行う体制ができてきているが、教員によって差がある。指導内容の統一性を高め、担当によるばらつきを減らしていきたい。</p> <p>②各部において顧問が目標実現に向けて支援し、生徒が主体的に活動することができた。</p> <p>③日常的な見守りと教育相談の充実により、生徒が相談しやすい環境が整った。SC・SSWとの協議をさらに充実させ、多面的な支援体制を整えていきたい。</p>	<p>①教職員間での情報連携を強め、指導内容の統一性を高めることに努めていく。また、初期対応を適切に行い指導・支援につなげていける体制を整える。</p> <p>②取組を継続することで、生徒の主体的で責任感旺盛な態度の育成に取り組んでいく。</p> <p>③教育相談を充実させるため、SC・SSWとの定例的な協議を継続し、教職員全体で生徒の不安を早期に把握できる支援体制を整えていく。</p>

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月5日実施)	総合評価(3月23日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	<p>①生徒が学習に意欲的に取り組めるきっかけとなるキャリア教育を推進する。</p> <p>②時代の変化を見据えた上で、社会が求める人材を的確に把握し、自分の目指すべき将来と進路先を見つけられるよう支援する。</p>	<p>①生徒の進路に対する意識を高め、進路選択、進路実現の支援を行う。</p> <p>②グローバル社会に対応できる、国際的な視野を身につけた人材育成のため、外国文化に触れたり、交流したりできる機会を設ける。</p> <p>③進路用のツールを効果的に利活用する。</p>	<p>①社会情勢を把握させるための社会人講話、大学セミナー、その他の講演会等を利用する。</p> <p>②カジョリーナ・シニアカレッジ(姉妹校・オーストラリア)との交流を通して、国際感覚を身につけさせる。</p> <p>③Classi、マナビジョン、その他のWebツールを活用できるように指導する。</p>	<p>①世の中を見つめる目が養われ、それによって自身の進路選択に生かされたか。</p> <p>②姉妹校との交流を通して、参加した生徒が積極的に外国文化を理解し、国際的な視野を身につける支援ができたか。</p> <p>③Webツールや学習支援ツールを的確に使用できているか。また、その効果が表れているか。</p>	<p>①今年度は、大学教授の講演会、日産自動車の社会人講話など多数の講演会、講話が、生徒の進路を考えるきっかけとなった。</p> <p>②カジョリーナ・シニアカレッジの生徒との交流の中で、日本文化の発表を通して、自国の文化を再認識し、世界から見た日本についての理解が深まった。</p> <p>③Classiが各学年の生徒にとって効果的に活用できていなかった。</p>	<p>①講演会は効果的であったが、LHR、探究学習の時間の多くをキャリアに費やしたので、時間数を各学年と確認しながら講演会等を企画していく必要がある。</p> <p>②姉妹校交流の次年度実施に向けて、実施内容や、どのように新たな参加者を募集していくかを検討する。</p> <p>③教科ごとに多数の学習ツールが世に出回っているため、Classiとは別のツールを模索し、より活用頻度が高まるものを選定していく。</p>	<p>①生徒たちが、将来的なビジョンを想定しながら、自分の進路選択ができるよう、生徒の現状に即して適切なキャリア教育を選択し実施してほしい。</p> <p>②交流の内容として、英語での発表など、校内外への発信を模索していけるとよいのではないかと。</p> <p>③今後、数ある学習支援ツールの中から、生徒が使いやすく、また、学習効果が得られるようなものを選定してほしい。</p>	<p>①生徒の将来的な進路選択を考えさせるきっかけ作りはできたが、インターシップなど、仕事に向けた職業観を養う機会が少ないので、次年度以降の課題とした。</p> <p>②教員・参加生徒以外にも姉妹校交流の取組を広く校内外に発信する方法を構築する。</p> <p>③駿台、河合塾で提供している学習支援ツールをじっくり検討し、生徒の第一志望校に合格させるためのプログラムを計画的に進めていく必要がある。</p>	<p>①今年度同様、社会人講話やその他生徒の刺激になる効果的な出前講座、体験授業等を計画し、実施していく。また、過去にきていただいた企業との関係を維持し、次年度の本校キャリア教育にも参画していただく。</p> <p>②受入れ時に「国際交流デー」を設け、学校組織全体で姉妹校交流事業を支援していく。</p> <p>③学習支援ツールと日常の授業をどのように連動すべきかを検討する。</p>
4	地域等との協働	<p>①地域の一員としての意識を育む教育を推進し、地域の活性化に貢献できる人材を育成する。</p> <p>②広報活動をより充実させ、学校に関わる全ての人に魅力を伝えられるよう努める。</p>	<p>①総合的な探究の時間における活動や、地域貢献活動等を通して、地域に根付く学校を目指す。</p> <p>②中学生を含む校外の人の来校機会を充実させ、魅力を高める情報発信に努める。</p>	<p>①地域の他校や卒業生と連携して実施する活動に全生徒が参加し、地域社会とのつながりを深める。</p> <p>②中学生等の来校者数が増えるよう行事計画を見直し、内容の充実を図る。</p> <p>③公式ホームページやInstagramを中心とした情報発信を積極的に行う。</p>	<p>①地域連携活動に様々な形で全生徒が参加できる機会を設け、参加を推進できたか。</p> <p>②中学生の来校者を増やすことができたか。</p> <p>③公式ホームページやInstagramに最新の情報を掲載し、毎月1回以上の更新をすることができたか。</p>	<p>①高大連携活動、卒業生講話、地域ボランティアや探究活動等を通じ、地域社会と関わる行事を複数回実施できた。</p> <p>②説明会等の開催時期を見直し、特に第2回は説明会の後に授業・部活動公開を併せて実施した。来場者総数は、のべ1,910人で昨年度比6%増となった。</p> <p>③公式HP・SNSは円滑な運用ができ、月1回以上の更新をすることができた。</p>	<p>①今年度は、地域の課題について考える機会を設けることができた。いずれは秦野市との連携などが実施できるかを模索していきたい。</p> <p>②来場者のアンケートによる評価も好評であったため、引き続き適切な時期・内容を検討していく。</p> <p>③発信頻度は確保できたが、さらに内容の広がりを図る必要がある。</p>	<p>①外部との連携は生徒にとってよい機会になる。探究活動については、ぜひ大学との連携も行ってほしい。</p> <p>②秦野高校が地域の憧れの学校であることは確かである。ぜひより魅力が伝わる情報発信に努めてほしい。</p>	<p>①総合的な探究の時間を中心とした機会を通じ、地域社会で活躍できる人材を育成できるようにしたい。</p> <p>②説明会等の来場者向けだけではなく、本校の魅力を多角的に広めたい。</p> <p>③ホームページやSNSも活用し、魅力を盛り込んだ幅広い広報活動に、引き続き努める。</p>	
5	学校管理 学校運営	<p>①生徒・教職員ともに安全・安心で快適な教育環境の整備・充実を進め、教育活動の一層の充実と活性化を図る。</p> <p>②不祥事防止の取組を組織的に進めるとともに、風通しの良い職場環境をつくり、生徒・保護者・地域の期待に応える学校づくりを進める。</p>	<p>①生徒・教職員の防災意識の向上を図るとともに、施設・設備の適切な維持管理や校内の環境美化を進め、教育環境の整備・充実を図る。</p> <p>②職員の主体的な不祥事防止の取組を行うとともに、働き方改革を組織的に推進し、信頼と期待に応える学校づくりを進める。</p>	<p>①防災に関する学びや訓練により防災への意識を高めるとともに、施設・設備の維持管理の見直しや環境美化の取組を進め、教育環境を整備する。</p> <p>②不祥事ゼロプログラムに基づき、研修や啓発を組織的に行うとともに、職務の合理化についても各グループ等で議論を深め、不祥事防止に努める。</p>	<p>①防災に関する指導や取組を充実させるとともに、施設・設備の整備や環境美化の取組を組織的に進め、教育環境を向上させることができたか。</p> <p>②不祥事防止の研修や啓発を効果的に実施することや、校務の改善や効率化を推進し、不祥事の未然防止につなげることができたか。</p>	<p>①防災訓練を通して、生徒の防災への意識を高めるとともに、避難経路の障害となる物品の移動や、不要な物品の廃棄など、管理体制の整備を進めた。</p> <p>②不祥事防止研修を月1回のグループ輪番制で行うとともに、オフィス改善事業や職場ディスカッションなどを通して、風通しの良い職場環境づくりを進めることができた。</p>	<p>①危機管理マニュアルの内容について、学校安全の実効性を高めるための見直しを行うとともに、安全・安心で快適な教育環境の整備をより一層図っていく。</p> <p>②不祥事の未然防止を図る仕組みや、働き方改革、職務の合理化に関する議論を、今後も職員全体で組織的・継続的に行っていく。</p>	<p>①校舎や設備の老朽化の中でも生徒の安全・安心な教育環境の整備を工夫している。引き続き必要な改善等を進めるとともに、防災・危機管理の意識向上に努めてもらいたい。</p> <p>②不祥事防止や校務の改善等に組織的に取り組んでいる。未然防止を図る仕組みを構築することや、生徒・保護者・地域の期待に応える学校づくりを進めてもらいたい。</p>	<p>①避難訓練やDIG研修等を通して、生徒の防災意識を高めることができた。安全・安心な教育環境の整備を進めつつ、防災・危機管理に日常的に取り組んでいく。</p> <p>②オフィス改善事業による職員室の環境整備を進めた。不祥事の未然防止を図る視点から、引き続き改善点を議論していく。</p>	<p>①生徒の学びの根幹に、安全・安心が最優先されることを念頭に置いて、教育環境の整備や防災・危機管理の啓発等を進めていく。</p> <p>②校務の改善等につながる議論を日常的に行い、実効性の高い取組は積極的に進めることで、働き方改革を推進していく。</p>

